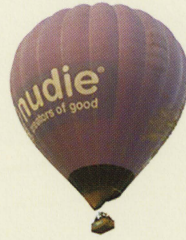


場所は

いつも

旅先だった



旅が教えてくれた、自分らしい生き方。



If you were there



監督 | 松浦弥太郎

朗読 | 小林賢太郎

主題歌 | アン・サリー『あたらしい朝』

監督補 | 山若マサヤ 撮影 | 七咲友梨 録音 | 丹雄二 編集 | 内田俊太郎 制作進行 | 門嶋博文 デザイン | 澁谷明夏 プロデューサー | 石原弘之
企画・製作・配給 | ポルトレ 宣伝 | プレイタイム 2021年/日本/78分/カラー/16:9/DCP ©Mercury Inspired Films LLP



「暮しの手帖」元編集長 松浦弥太郎 自伝的エッセイ集を自ら監督して映画化



そこには何があるのだろう。

そこにはどんな人が暮らしているのだろう。

どんなしあわせや、どんなほんとうがあるのだろう。

本作はクリエイティブディレクター、エッセイストなど様々な肩書きを持つ松浦弥太郎が初めて監督した劇場用映画。2011年に著した旅にまつわる自伝的エッセイ集「場所はいつも旅先だった」と同名のタイトルながら、内容は映画オリジナルで一本のドキュメンタリーとして新たに生まれ変わった。ロケ地を選んだのは、サンフランシスコ（アメリカ）、シギリア（スリランカ）、マルセイユ（フランス）、メルボルン（オーストラリア）、台北・台南（台湾）の世界5カ国・6都市。いずれも「現地の人々の日常の営みを感じられる」からと、撮影は主に早朝と深夜に行った。旅先での数々の出会いとかけがえのない日々を、飾らない言葉でひとつひとつ綴るエッセイ集のような作品が誕生した。朗読で脚本家・演出家の小林賢太郎が参加し、主題歌にはアン・サリーによる「あたらしい朝」が使用されている。



カリカリに焼けたベーコン

野を裸足で歩く親子

ディープな儀式

道ばたの野良犬

旅が日常だったわたしにとっては

なんだかとても懐かしく

旅することが難しくなった

今のわたしにとっては恋しく感じる。

映像からにじみ出る

そこに暮らすひとの感情、

みずみずしい湿度、スパイシーな匂いを

思いだし、旅を体感できる。

そんな78分の心を

堪能させてもらいました。

イモトアヤコ



限定ポストカード付き前売り券

¥1,500円（税込）発売中

デザインは全5種！どれが出るかはお楽しみに

—— クラウドファンディング実施中！ ——

詳しくは公式HP
をご覧ください



横浜シネマ・ジャック&ベティ
にて公開
045-243-9800 京急黄金町